

船附区九内一、六海上ビル新館三階

日之夕汽船株式会社所有汽船 八幡丸 噸數一八五、七八

兼運員船長山本封一郎以下三十四名

右汽船ハ朝鮮兼三浦ヨリ鉄材三〇五八噸ヲ積載シ八月六日午前十時東京港ニ入港セルモ、ナルガ八月八日全船兼運員油差粉山

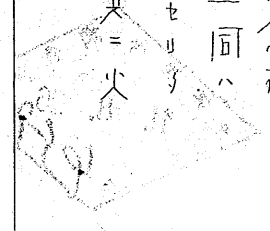
良市ハ家庭ノ事情ニ依リ下船シ、ト爲機園長西原忠三郎ハ社命ニ依リ之ガ後任ノ雇入ヲ斡旋シ、園長日車海員組合東京支部ニ依頼シ、シムニ同支部ニ在リテハ同船ニハ後未上級者下船ノ場合ハ

下級者ノ繰上ヲ爲ス慣習アルニ非ズヤト念ヲ押シ、ナルニ同機園長ハ社命ニ依リ雇入ヲナスベキモノニ付全然斯ノ如キコトハ意

ニ介セズ油差担当者ヲ紹介サレシト主張セシ爲メ、河瀬賢吾氏ヲ油差トシ、斡旋乗船手続ヲナシ、トコロ同船機園長兼一同ハ

別種番仲山文治ノ油差繰上ガテ主張シテ譲ラズ、事態終結セリ、

又本社ヨリ監督船長岩沢理八全船ニ付、番船長及機園長ト共ニ火



夫長打越茶由ト全日午後六時ヨリ全船食糧ニ付テ急務折衝ヲ重

オシ、トモ容易ニ遷シ、ズ更ニ会社側ハ本件ヲ斯ク終結セシメ、シ

ハ畢竟打越火夫長ノ煽動ニ基因スルモノナリト、立前ノ下ニ全

火夫長ノ責任ヲ肉ヒシ、ト全火夫長ト会社及船長ニ対スル不協

ヲ前アルト共ニ下船スル事ヲ表明シ、畧解決ノ曙光ヲ見ルニ至リ

レガ更ニ機園長兼一同ハ火夫長ノ下船ニ拘ルル旨ヲ述ベ、同ビ形

勢逆転ノ虞アリ、シ、ト以テ所携水上署ニ於テ之ガ調停斡旋ヲナ

シ、結果八月九日午前六時ニ至リ、是レ詭條件ヲ以テ系ヲ解決セ

記

①船員ノ職域繰上ニ付、園長及船長兼一同適當ノ時訓ニ付、

②打越火夫長ノ下船ニ付、ハ会社側ニ在テ全一封印ニ付、

③社内(内容)会社(一任)ノ入、